

胡散臭く思つたのだらう、俺はオーバーも脱ぎ棄て、毛布のコシマキも解いた。

チヨツキも着けて全部で二十圓だと云ふ。

押入れにつつ込んでゐたかび臭いを出して來たのだ、

ズボンを着いて着難い左前の上衣を着せてくれる。

俺は結局其處を飛び出した。

十圓にまけろまけないで掴み合ひになり兼ねない情勢だつた。

俺はおでんやへ這入つた。

十一時過ぎてゐた。

一本飲んでる間に終列車に間に合ひ兼ねそうになつたので走つた。

假普進の門司驛はガランとして終列車は出て行つた後だつた。

俺は遊廓を素見しに歩るいた。

宿屋へ泊るのも馬鹿らしい、夜中の二時頃から一人の中學生と門司驛で話をした。

中學生は戀人にレターを渡し損なつて悲觀して毎日長府から通つてゐるのだが、今夜諦め様か